

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>・地域の中にあるホームを自覚し、地域の生活との繋がりを尊重し貢献出来るよう努めている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>・家族や地域の方々にも理念がより浸透できるように、諸行事などあらゆる施設活動において理念を表明している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>・家族会などで理念について話題に取上げ、家族の方々にも認識していただけるように努力している。</p> <p>・地域の病院・公共機関などに理念が浸透するよう、理念をかかげたパンフレットを置いてもらうようにしている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>・行事計画作成の時は、なるべく地域の方とふれあう、プログラムを多く取り入れるようにしている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>・今後共、保育園の園児との交流会は継続していきたい。</p> <p>・ボランティアとして、利用者の話し相手や囲碁の相手に来てもらっていたので、今後とも、これを継続していけるようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・人材育成として、福祉関係の学生を対象に自主実習やボランティアの受入れをしている。 ・近隣の生活道路の清掃を、日課の一貫としておこなっている。	○	・地域老人会などの受入れ要請がある時は、積極的に受入れたい。 ・キャラバンメイト養成講座を1名受講しているのでこれから地域の方々に認知症への理解を広めていけるようにしたい。今年度も、参加する予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価をや外部評価の結果を、全職員で共有シケアに生かしている。 ・評価項目を分析反省するとともに、評価の意義を遵守する意識を高めている。	○	・評価結果については、全体会で話し合いその結果を目的のつくところにおいてケアに生かしている。 ・評価の意義と理解を深められるよう、研修内容に取り入れている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在、2ヶ月に一度のペースで開催し、サービスの向上について検討している。 ・行事や、その時の出来事などケアについての実施状況を報告し、助言やお手伝いを頂いている。その中で保育園児との交流やイベントなどにつながった経緯がある。	○	・運営推進会議の内容を充実させ、より良い意見を取り入れて、サービスの向上をはかっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護長寿課に常に出向き担当者と情報交換をしたり、相談に乗ってもらったりして、サービスに反映させている。	○	・たびたび、市担当者と情報交換を行っている。 ・包括支援センターにパンフレットを置き、定期的に当施設の説明をしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員に権利擁護や成年後見人制度を理解するように、研修会を行っている。 ・過去に利用者に成年後見人制度の該当者がいたので、活用したことがある。 ・スタッフに社会福祉士・介護福祉士がいるので、研修などでより理解を深める契機になっている。	○	・該当者には、すみやかに支援する体制がある。 ・これからも、権利擁護についての勉強会に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・危険を回避する時の拘束が必要な場合は、医師との連携のもと同意書に基づき家族に説明し、理解の上記録に残す体制が出来ている。 ・虐待防止の研修に出席し、そのマニュアルを掲示して職員への理解を深めている。	○	・職員の意識向上と共に、お互いに注意する体制がある。 ・虐待防止に対する理解を深め、そのような事態が発生しないように注意を払い全職員で支援・介助に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居までに自宅や病院、デイサービスなど訪問し、十分な説明・理解・納得してもらっている。又、契約時にはケアマネより契約書・重要事項説明書をくわしく説明している。 ・疑問点は、いつも受け入れ解決できる体制にしている。	○ ・契約に関する説明は、納得されるまで説明していく。 ・介護担当者より、詳細なケアの説明をすることもある。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、ホームの玄関に苦情相談ポストを設置している。 ・日常の利用者の苦情に対しては、いつでも対応出来るようにしている。	○ ・日々のサービスの中で、利用者の意見に対してはこまやかな気配りをしている。 ・運営者・施設長が出社時には、必ず利用者に挨拶を行い話しやすい環境にしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・定期的に、「かえで通信」を発行、生活状態について報告、個々の健康状態については、家族の来所時に報告、緊急時には電話連絡にて報告している。 ・金銭管理・職員の異動・変更については、定期的に報告をしている。	○ ・運営に関する意見なども、積極的にたずね運営やサービスに活かしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・重要事項説明書の中と玄関に、相談・苦情窓口を明示している。・苦情が出た場合には、運営推進会議で話し合い家族会で報告する準備がある。	○ ・家族面会時には、運営に関する意見・要望なども積極的に尋ねている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・運営に関しても、職員の意見や提案を聞くよう努めている。職員の意見も実践に反映していて効果があがっている。 ・運営者と職員の間は、連携を密にしておき職員の意見が管理者によく届いている。	○ ・職員の意見が運営に、より反映できるように面談や意見交換の場を設けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・勤務表は、あらかじめ希望を聞いて、出来るだけ希望に沿った勤務表を作っている。 ・勤務時間は、柔軟な対応が出来るように、人員や時間帯に余裕を持って作成している。	○ ・非常災害や不測の事態に対し、運営者と近隣の職員がすぐに対応できるような体制にしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・異動は急に行うのではなく、前もって説明し事前勤務や移動後の職員紹介をするなどの配慮をしている。	○ ・新規職員と現行職員と勤務を合わせたシフトにしているため、利用者の心理的障害を最小限にできる配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・職員で受講資格のある人は、積極的に研修を受けてもらうようにしている。また、研修を受けた職員は、全体会で内容についての発表を行ない、全職員で情報の共有をはかっている。</p> <p>・外部施設と連携し、職員研修も他の施設で行っている。</p>	<p>○</p> <p>・施設内トレーニングは日々のサービスを実践しながら、行なっている。</p> <p>・職員の研修計画や研修履歴などを作成し活用している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム協議会の方々との交流を持っており、研修などを通じて交流の機会をふやしている。また、外部施設と施設交流をさせて頂いている。</p> <p>・他業者との積極的に交流している。</p>	<p>○</p> <p>・他のグループホームの見学を受入れたり、他の施設を見学し、良かった所は当職員と話し合い、サービス向上に努めている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・休息室に、冷暖房設備・音響機器を設置し、くつろげる空間の提供をしている。職員の公私に関わらず相談事は施設長をはじめとして、積極的に応じる体制にしている。</p>	<p>○</p> <p>・職員の得意分野や長所を取り入れ働きやすい環境作りをしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・常に職員に声掛けと激励を行っている。</p> <p>・資格取得や勉強の機会が持てるように可能な限り支援している。</p>	<p>○</p> <p>・今後とも職員からの、よいアイデアの提案があったら取上げ運営に活かしたい。</p>
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・傾聴を心がけ、パーソン・センタード・ケアの理念の元に、誠意を持って対話できるよう、研修を行っている。</p> <p>・申し込みから入所まで、何度も面談し、本人 家族の話を聞くようにしている。試用期間を設けて馴れてもらったこともある。入所前に馴染んでいただくため何度か日中をすごしていただくこともある。</p>	<p>○</p> <p>・利用者の名前や顔を覚えてもらうため、積極的に接触している。</p> <p>・本人の話を傾聴し、細やかな観察することを基本姿勢としている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・家族と何度も会い、家族の話を傾聴している。また家族の希望を理解し、事業所として、どのような対応ができるか話し合いをしている。こちらからも積極的なアプローチを心がけている。</p>	<p>○</p> <p>・家族会に入会していただき、他の利用者の家族と話し合う時間をひきつづき作り、積極的な施設の運営を理解していただけるようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・その人にあつたサービスの優先順位を見極め、平行して他のサービスも行っている。(歯科受診・リハビリなど)	○	・本人と家族が不安を解消できるよう、他施設の資料などを準備し説明している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に本人と家族に来所していただき、ホームの雰囲気を知ってもらうよう努力している。また、入居時に馴染みの家具などを持参していただき雰囲気づくりに努めている。	○	・入居された時点では、本人の意向に沿った生活をしてもらい様子を見ている。場合によっては、家族の協力もお願いしている。 ・食事・排泄・睡眠を整えることを基本とした介護を実践をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・料理の好きな利用者から料理を教えてもらったり、園芸の好きな利用者と一緒に玄関周りの花の手入れをしたりしている。 ・利用者の生活歴や職業歴を活用することにより、介護の考え方や技術の向上に活用している。	○	・職員全員が利用者を人生の先輩として、敬意の気持を持って接しいろいろ教えていただいている。 ・職員の見舞いなど、利用者が自発的に言いたいと言われ、見舞いに行った事がある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・感情をこめた人間関係づくりの為、家族の面会を積極的に進め、家族と職員の情報交換を行っている。	○	・面会、年間行事、新聞発行、病院受診、年末年始の外泊、外出など積極的に家族によびかけ、支援協力の体制が出来ている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時間の制限はせず、部屋で面会してもらっている。 ・お茶や椅子を用意して、家族団らんが出来るような環境作りをしている。 ・利用者や家族の生活歴や情報を活用し、よりよい関係を築くよう支援している。	○	・ホーム行事を、家族に呼びかけ、利用者や家族の時間をつくっておだやかに楽しく過ごしてもらっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・病院受診の時などを利用して、お墓参りや知人への訪問をしている。又、家族にも支援してもらっている。 ・知人などの来訪や電話や手紙などを受入れる関係を維持、向上できるよう支援している。 ・来訪があれば、快いおもてなしを援助している。	○	・正月や盆などを利用して、外泊や外出の機会をつくるよう、家族に協力をお願いしている。 ・電話の取次ぎ、手紙の代筆などにすばやく対応している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・障害のレベルに配慮して配置している。食事やTVを観る時の席は、できるだけ良い関係が築けるよう設置している。 ・利用者の機能・能力に応じて不足するところを援助し、よい関係が保てるよう介護に努めている。	○	・利用者が同じ話題で話あったり、ゲームをする時に職員が、人間関係を調整している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入院・退居された利用者の方々に、時々お見舞に行き家族の相談にのっている。 ・アフターケアの支援体制を整えている。 ・家族から電話での連絡がある。	○	・退居された利用者に対しては、病院、施設・家族との情報交換をし、時候の挨拶などがかかさないようにする。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人や家族の意向を聞き、情報交換をして、サービスに活かしている。 ・日々の生活の様子は、勤務時間帯以外のことも介護記録や申し送り簿など関係記録を活用して認識し、利用者の介護サービスが満足できるようにしている。	○	・家族との面談を増やし、サービスの向上に努めている。 ・利用者との会話の中で得た情報を、全体会などで検討し、意志の統一をはかっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に前担当のケアマネや病院等からの紹介状や記録などを利用して把握している。 ・その人の生活歴を把握し、それに応じたケアなどを行っている。生活歴においては、入所前の情報提供シートなどから得ているが、毎日の生活の中から利用者にもうかがっている。	○	・家族が来所された時に、生活歴などをお聞きし、利用者の内面に触れるような事柄などの情報を介護に活かしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の生活の中で、サービスを提供しながらその反応などを含めて客観的に判断できるようにしている。 ・職員同士の連絡を密にすることで、記録の活用を含め、看護師かかりつけ医などと連携をはかりながら、利用者の心身の状況を的確に把握するようにしている。	○	・個別にサービスの向上がはかれるよう、暮らし・心身状態・能力の分析をすすめ、介護計画に個別的に反映できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族と利用者の意見をよく聞き、より反映できるよう、安心して安全を目指しケアスタッフの意見を加え、充実したプランになるように努めている。	○	・会議を利用して、ケアスタッフの利用者に対する情報の共有をはかっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・スタッフや家族、ホームドクターの意見を聞き、方針の変更をして、新たに介護計画を作成し、すみやかに対応できるようにしている。	○	・家族との連携を密にして、介護計画の見直しは、すぐに意見が現状に反映できるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護サービスが連綿として円滑に行われるよう、職員の連携を密にしている。 ・利用者に関わっている方からの情報を得て、介護計画に活かしている。	○	・状況に応じて個別記録を、全職員で検討・分析し介護計画を見なおすようにする。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家庭菜園を利用者の家族の方に作ってもらい、収穫や見学などを日常的に行っている。 ・音楽ボランティアや行事ボランティアなどを受入れ、新しい刺激を入れるようにしている。	○	・ボランティアの受入れ、趣味・娯楽の幅を広げて行くように努力している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員の方とは、運営推進会議への出席及び情報の交換を行っている。 ・音楽、行事の支援ボランティアの受入れをしている。 ・警察、消防などの各機関に消防訓練や防犯訓練に来てもらっている。 ・文化・教育などの公共機関、特に図書館の利用を進めている。	○	・台風・地震などの災害時には、地域の方々の受け入れに対して支援する体制にしている。 ・公民館活動などに参加するようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・利用者の心身の状態や変化に応じて家族と相談し、他の施設と情報交換をしている。 ・介護支援専門員連絡協議会や研修会などに積極的に参加し、情報の収集や交換を行っている。	○	・本人・家族からの要望に応じて他のサービスの説明・紹介をしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・情報交換を行い、積極的に協力する体制を整えている。 ・運営推進会議に、出来るだけ参加して頂いている。	○	・積極的に地域包括支援センターを訪問し、常に新しい情報の交換に努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者や家族の希望する医療機関を受診してもらっている。 ・当施設の協力医に毎月複数回、往診に来てもらっている。	○	・往診のない病院には、受診時に ホームでの状態について書類(看護師より担当先生に)で情報提供している。 ・主治医と密に電話やFAXで情報交換をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>・常に、医師及び関係機関と情報交換している。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>・これからも、看護職と介護職との連携をより深めたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>・これからもより積極的協働をすすめ、これを継続していきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>・家族会の際には、重度化や終末期に向けた方針について話し合い、理解をして頂いている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>・家族や、協力医に対しその時々々のケースに応じて対応できるよう体制を強化していく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>・研修や実践を通して、住み替えのダメージ防止を職員全員に意志統一をしていきたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報ほとんどを、事務所の施錠できるところに厳重に保管している。 ・職員の守秘義務を徹底させ、その意識を高めるようにしている。	○ ・プライバシーと守秘義務の意義を徹底させ、記録の記入、電話などの対応についても、研修の機会を多く持つようになっている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者の意向については、集団生活の中で可能な限り積極的に対応している。	○ ・職員と利用者の会話の時間をできるだけとり、利用者の希望の把握に努めていきたい。 ・常に、職員と利用者対話しており、その度に出来る限り支援できるよう努力している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の立場に立って 本人の意向に添ったサービスをしている。 ・その利用者に応じた、ペースで食事時間・入浴時間の調整など、毎日の暮らしをゆっくりと過ごしてもらっている。 趣味や運動などその人が満足するように支援している。	○ ・毎日の日程とその利用者の過ごし方を、円滑に調整できるように、職員の連携を図っている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・好みの理容店を利用している。 ・常に鏡が利用できるよう、環境を整えている。 ・常に、身だしなみや、適切な服装を着用するよう支援している。特に髭剃り・化粧については、本人の希望に沿うようにしている。	○ ・本人の好みを重視し、日常や外出など目的に応じた服装が出来る様支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備や片付けは、個人の能力に応じて一緒にやってもらっている。 ・旬の食材(家庭菜園で出来た野菜など)を利用し、食事の時に食材や季節の話しをしながら食事をとっている。 ・食事をゆっくりとして頂くための雰囲気作りを大切にしている。	○ ・食事も生きがいにつながることを自覚し、適宜利用者の嗜好調査を行ない、利用者も料理に参加して頂くなど、食事を楽しむ環境にしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・飲み物やおやつは、お茶の時間でおおいに楽しめるようにしている。 ・お酒・たばこなどの嗜好品については、健康状態などを考慮しながら、出来る範囲で楽しんで頂いている。	○ ・喫茶する雰囲気や環境を整えて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・各々の排泄パターンを記録にとり把握しているので、利用者には合った支援ができています。 ・夏に紙パンツから布パンツに変えるなど、状況に応じた支援を常に心がけている。	○	・利用者の排泄パターンを見逃さない介護を目指している ・暖かくなったら紙パンツから布パンツに変えていくなど支援をこまやかに行なう。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は、本人の希望を優先している。曜日、順番等づらすなど配慮できるようにしている。介助の方法も本人の希望を取り入れている。	○	・入浴後に、満足された発言をよく言われている。 ・融通性のある入浴介助をしている。現状では、満足される声が多い。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・冬季夜間はアンカを用いて、安全に使用している。 ・安心して安全な睡眠が出来るように、環境を整えている。 ・心身不安定にならないよう、観察とケアをおこたらないようにしている。また昼夜逆転に注意してケアに取り組んでいる。 ・利用者の日課に応じて適切な昼寝を進めている。	○	・毎週、天日干しに努め清潔に心がけている。 ・布団カバーや枕カバーは常にとりかえ清潔に心がけている。 ・居室の温度・湿度の快適性に心掛けている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者同士、職員との会話を大切に、利用者それぞれに応じた生活を楽しんでいる。 ・意志の表現できない利用者には、表情や発語を大切にそれぞれに応じた支援をしている。 ・言語的コミュニケーションの円滑でない方も、声掛け・表情の読み取り・寄り合いなどで対話の努力をしている。	○	・個別の役割に感謝と賞賛の上、社会的役割の満足さにおいて効果が上がるよう常に意識して介護を行っている。 ・面会時・食事・入浴時や美しいものを見た時、またレクリエーションなどあらゆる場面で満足感を味われるようこれを維持できるようにする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族よりお金を預かっているため、いつでも使えるということを利用者に話し理解していただいている。 ・家族の了解の上、利用者の中に自分でお金を持つ事で不安の解消される方には、持ってもらっている。	○	・献立計画を職員と一緒に立て、一緒に買物の手伝いをして頂き体験を通して、社会的機能維持に努めていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者の体力に応じて、外出の支援をしたり、ホームの菜園の見学や収穫、ホームのまわりの散歩、花見など行っている。 ・同法人のグループホームへドライブをかねて交流会を行っている。	○	・各利用者の体力や興味に応じた支援を積極的に行きたい。 ・外出・外泊は、ご家族のご協力を得、ドライブや外食に行かれ家族団らんを楽しまれているので、これをこれからも支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・マラソンの応援やプロ野球のキャンプの見学に行っている。 ・季節の行事に合わせて外出している。	○	・家族との墓参りや、馴染みの人に会ったり、食事をしたりして施設以外の外出支援を積極的に行っているためこれを維持していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・基本的に電話は利用者が自分でしたいときにしている。 ・手紙の返事は支援しているが、人によっては困難であるので、医師や家族の助言によって対応している。手紙も自由に書け、投函できるようにしている。	○	・毎年、年賀状を、家族や知人に出している。 ・今後共機会をみつけて電話・手紙の活用を、よりよく支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は制限していない。 ・家族以外の面会も度々ある。 ・家族と利用者が心地よく和やかに会話出来るように、お茶やお菓子を提供し家族団らんを楽しんで頂いている。	○	・今後とも面会をふやせるよう、継続して支援していきたい。 ・園庭やプロムナードを充実させ、より来訪しやすい環境を提供したい。 ・三大イベントには出来る限り参加して頂き、利用者と一緒に楽しんで頂けるよう努力している。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・緊急時の身体拘束について家族へ同意は頂いているが、身体拘束はない。	○	・拘束をしない介護に取り組み、今以上に身体拘束の意識を高めるため、部外研修に積極的に参加して行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中玄関の鍵はしていない。 ・利用者の行動パターンを職員が把握し常に視野のなかに入れておくよう心がけている。 ・玄関などに、センサーをつけ、徘徊事故に対応しているので鍵をかけないケアができています。	○	・今後とも鍵をかけないようにする。 ・ケースによってはマットやセンサーを増やすなど安全で効率的な介護を取り組みたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員がその場を離れる時は 職員同士で声を掛け合い、利用者の所在確認や安全確認に配慮している。 ・利用者には、挨拶・声掛け・コミュニケーションなどを通して、常時安全確認を行っている。	○	・ホールが中央にあり、職員が安全確認し易い施設構造になっているので、見守りが徹底できている。 ・利用者の安全を第一と心がける介護をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・現在は、異物誤嚥など全くない。 ・職員が、利用者のパターンを把握しているので危険回避はできている。 ・洗剤、包丁、鋏類は所定の鍵のかかる場所に収納し、確認を行っている。	○	・鍵の施錠の確認は毎日の勤務日誌に記入するようにし、安全確認を心掛けている。 ・物品保管での事故は全くないが、慢心することなく安心安全に心がけたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハットや、事故報告書などを全体会で取上げ利用者の状況と問題点をあげることで、原因・対策が円滑に行えており安全なケアに活かしている。 ・転倒しやすい利用者のトイレ利用は、必ず職員が付き添って介護している。	○	・今後も意識を高めるよう施設内研修を行って行きたい。 ・ガスの元栓・電気・火元の確認は毎日の勤務の中で確認している。 ・不測の事態を想定しながら、毎月見回り・点検をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・看護師や応急手当普及員を配置し、研修や訓練に活用している。・マニュアルを作成し見やすい所に置いている。 ・事故発生時の連絡場所が明示してある。 ・全体会において、応急手当初期対応の訓練を定期的に行っている。	○	・全体会や研修などを利用し、急変や事故発生時の対応についての意識や知識技術の向上に努めている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防火管理者を配置し、火災訓練・避難訓練などを計画実施している。 ・警察署・消防署などの実地指導を受けている。	○	・災害時の避難訓練を地域の消防団や家族会にも声をかけ、協力を保って行なっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入所時のリスクに関する説明を行ない、理解してもらっている。 ・問題が発生したときは、利用者と家族の意見を大事にして、解決できるよう努めている。	○	・家族と話し合い、施設として安全・安心な暮らしができるよう、常に努めている。 ・あらゆるリスクを想定し、常時確認しリスクのないことを家族に説明できるよう環境改善に努めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎朝バイタルチェックや観察を行い 体調の変化を発見した時は看護師に相談し、掛かりつけの医師に連絡し指示をもらっている。又その情報は申し送り簿や介護記録などに記入し、必ず口頭で次の勤務の人に申し送っている。 ・入浴時には、体調の変化のほか、個別に全身の皮膚の変化などに気をつけている。	○	・週2・3日は看護師が勤務に入っている。 ・不在のときも、また電話での報告指示で、早急に対応できる体制にしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は利用者の服薬について用法や用量について常に確認しておりいままでも誤薬はない。 ・薬情報はいつでも全職員が見ることが出来るようにしている。 ・薬や誤薬についての研修を定期的に行っている。	○	・薬の変更時は、申し送り簿に記入した上、口頭で引継ぎを行い職員に周知徹底をしている。 ・副作用についての理解をより深めるよう研修を行なう。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食事には繊維の物を多く取り入れ 食事 お茶 お風呂の後など出来る限り多めの水分を取るよう気をつけている。 ・室内歩行・室外散歩など、体調観察を支援して運動を心がけて快適な排便が出来るようにしている。 ・記録や、排便チェック表を活用して、常時観察を行っている。	○	・乳酸菌飲料(ヨーグルト)を食事やおやつに取り入れ、腸の働きを促している。 ・三日以内に排便があるよう調節を看護師の指示により行なっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後は、ハミガキ・うがい・口腔内の確認をし、介助し支援している。 ・夜は義歯の消毒(ポリデント)に対応し口腔清潔を心がけている。 ・食前には、口腔体操や、唾液腺マッサージを行っている。	○	・清潔保持・健康増進の意識を高める研修に参加する。 ・対象者がある場合には、定期的な歯科医師による、口腔ケアの支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスを考え 利用者ごとに食べる量や水分量について考え考慮しながら対処している。特に、繊維類を中心とした高タンパク質の食事を心がけている。 ・体重測定を二週間に一度行い、記録・観察している。	○	・一日の水分量も記録・チェック・観察している。 ・栄養士にカロリーについて調べてもらったが 非常に良い評価を得ており、これを維持向上できるよう努める。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対応マニュアルを備え、常に意識した介護をしている。 ・うがいや手の消毒は訪問者にも理解してもらい実行している。 ・インフルエンザワクチンは利用者、職員とも全員接種している。	○	・ペーパータオルや個別のタオルを準備し交換している。 ・インフルエンザやノロウイルスの予防対策は台所や洗面所に掲示し、励行している。 ・感染症対策として、使い捨てマスク・手指消毒剤など、外部からの感染にも対応している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・ホームの家庭菜園でできた、新鮮な野菜を使っている。 ・水産食材は、地域の鮮魚店と契約し、調理直前に届けてもらっている。 ・冷蔵庫 まな板 布巾 包丁の消毒などは 勤務中行ないチェックするなど衛生管理に努めている。	○	・調理師の指導の下、今以上に管理を徹底していきたい。 ・安全な調理と取扱いに心がけており、これを維持・向上できるようにしたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りには、プランターなどに木や花を植えたり 家庭菜園をつくり、利用者の家族にお手伝いをお願いしている。 ・玄関や裏口から車椅子での出入りができる施設構造であり、また周囲を整備し安心・安全な施設であるようにしている。	○	・これからも継続して家族のお手伝いが頂けるようお願いしたい。 ・駐車場が広いため近隣の人に利用してもらい、地域の中の施設として親しんでもらうよう今以上に努力したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食事の時は、ふさわしい音楽をかけたりテーブルやリビングなどに季節の花を飾っている。 ・季節に合わせた、ひな祭り・鯉のぼり・クリスマスツリー・鏡餅・カレンダー・絵などを飾り、四季や雰囲気を感じて頂いて好評である。	○	・利用者の日々の生活などの写真を掲示し、利用者・家族に楽しんでもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングやホールにいろいろな座りやすいソファや椅子を配置している。 ・リビングにTVや展示物を飾り楽しんでもらっている。 ・居室が自由に出入りが出来るので、利用者同士で話を楽しまれている方が多くいる。	○	・居室が常に清潔で明るくなるように清掃や、窓の開閉時間などに常に配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具や昔の写真の額なども、持ってきていただいている。 ・居室に家族の写真や誕生会に皆から書いてもらった寄せ書きなど貼ったりし家庭的な雰囲気心がけている。	○	・入所時には、利用者本人より話をよく聞き、家族と共に居室空間づくりに取り組んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・施設全体にエアコンを配置、温度計や湿度計を使って室内環境に気をつけている。 ・換気や採光などに、常に気をつけている。	○	・気になるにおいはないが、今後も異臭除去に努める。 ・自然の風を一定時間入れるため定期的な換気に努めています。 ・冬期のエアコンを使う時期には加湿器を利用し健康管理にも気をつけている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや浴室には手すりなどを設置し、車椅子でも対応できるスペースが充分にとっている。玄関に手すり 靴の履き替えが便利な椅子を配置し一人で靴を履き替えしやすい環境を整えている。又、1人1人、入浴時のロッカー・洗面具入れ・靴箱などを用意し各人の身体機能を活かせるよう充分に対応できるように配慮している。	○	・洗面所に大きな鏡があり身だしなみに利用されている。 ・入浴・トイレ介助時に事故に繋がることはなかったが、これからも今以上、自立支援を心掛け、職員の意識の向上と介護力を深めて行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室内には、使い慣れた家具や椅子などをご家族に持参して頂いたり、手作りの名札を使うことで自分の居室の認識を高めている。 ・トイレや洗面所は、自分の好きな使い慣れた所を利用されているので混乱はないが、今後も暮らしやすく、使い勝手の良い住居環境を整えている。	○	・持込品には必ず名前を付けているので混乱はない。 ・居室には、本人が作った名札が掛けてあり、混乱は少ない。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダで夏祭り 豆まきなどの行事にも利用している。又、双眼鏡をおき、バードウォッチングをしている。 ・玄関まわりに花を植え、ベランダからは家庭菜園や景観が楽しめるよう配慮している。	○	・利用者の家族の協力を得て一年中家庭菜園で野菜作りをしている。利用者の楽しみと生きがいにもつながるので、これからも継続してお願いし住環境と景観を維持向上させたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・レクリエーションの参加や利用者の好きな歌を生活に取り入れている。
- ・レクリエーション等多くあり入居者の表情も明るい。また、利用者同士の会話も多く職員ともうまくコミュニケーションが取れている。
- ・スタッフも明るく熱心である。ケアもいき届いていると思う。
- ・散歩する環境にめぐまれている。(住宅地の花々・田園) 季節を感じられる。
- ・おいしい食事、元気になる。食事食べやすい食事を心掛けている。
- ・楽しい所にしていきたい。仕事をするのが楽しい。
- ・介護の技術、知識を高めるのはもちろんのことそれぞれの利用者から学ぼうとする姿勢がある。今までより明るく元気な所になっていると思う。
- ・できるだけ利用者の要求に答えようと努力している。利用者の方々が望んでいる事や、したい事等、実行できるよう努力していると思います。